

| | |
|------|---|
| 開催地名 | 愛知県豊橋市 |
| 開催日時 | 令和6年2月18日(日) 10:50 ~ 12:20 |
| 開催場所 | ライフポートとよはし |
| 語り部 | 山田 修生(宮城県仙台市) |
| 参加者 | とよはし防災リーダー(地域住民) 66名 |
| 開催経緯 | 自主防災組織で活躍する「とよはし防災リーダー」が、最新の知識の習得及び技術の確認を行い、更なる地域防災力の強化を目的として「防災リーダーフォローアップ講座」を開講した。 |
| 内容 | <p>(はじめに)</p> <p>45年前昭和53年6月に死者28人、負傷者11,000人、家屋損壊13万戸を記録した宮城県沖地震が発生した。この地震がターニングポイントとなって、宮城県は地震防災に本格的に取り組み始めたと言える。</p> <p>(1) 東日本大震災の実体験・教訓</p> <p>2011年3月11日14時46分</p> <p>東日本大震災の震源の規模は牡鹿半島の東南東130km付近、海底6500m、30mを超える大津波。縦500km、横200kmの海底プレートが崩れたことにより発生した大地震は、マグニチュード9.0を記録した。西暦869年にこの大地震に匹敵する規模の貞観地震が東北地方で発生しているため、1000年に1度の災害と言われている。</p> <p>2011年3月11日の午後、突然、地下からすごい勢いで突き上げる感じの揺れを感じた。そして縦揺れ、横揺れ、今度はななめ揺れとどうしたら良いかわからないような揺れが長く続いた。地震発生時は、全く身動きがとれず、両手両足で何かにつかまっていなと立ってられない程であった。各地で地震に関する講演や研修を行ってきた身であるが、頭が真っ白になり、どのように対処すればよいか全く分からなかった。地下の排水管からは水が噴出し(マンション、アパートの屋上タンクや建物内水道配管の壊滅的破壊、電気温水器の倒壊他。)電信柱などは倒壊して火花を散らしていた。地震には前震、本震、余震がある。横揺れは大丈夫ですが、縦揺れは注意しなければいけない。(本震の後1ヶ月後必ず同じような地震がある)町内会や自主防災組織などの団体の避難訓練を行ってきたが、家族・近隣住民など小単位で避難せざるを得なかった。津波が来ることを想定し、とにかく海岸から出来る限り離れるように避難した。</p> <p>現在各地で行われている避難訓練は、通常土・日・祝日を中心に行われている。しかし東日本大震災は、勤労者、特に男性がほとんどいない平日の昼間の時間帯に発生した。高齢者や主婦しかいない状況下での避難訓練も想定していただくとともに、自主防災会や役員への女性の登用についても今後は推進していく必要がある。そこで提案として、豊橋市の防災リーダー1213人のうち女性の防災リーダーが積極的に手を挙げて携わって頂きたい。そこで女性だけの避難訓練、防災訓練を行うことで、どこまで対応できるかの状況を知って頂くことが大切である。</p> <p>地震が収まった後、避難所の運営に携わりました。すでに訓練等で担当が決まるところも多いだろうが、名簿班、総務班、情報広報班、食料物資班、救護衛生班などに分かれて活動することになる。一番需要になるのはトイレの問題である。避難所は人</p> |

数が多く、トイレが必ず詰まってしまう。組み立て式のトイレもすぐにいっぱいになる。これは今後の重要課題として意識しておいてほしい。

また避難スペースの周知徹底も重要である。指定避難所に行った場合1階の高さでは水没する恐れがある。必ず2階以上に避難するように周知したい。

皆様にやって頂きたいこととして、「自宅避難所」の確保である。可能であれば荷物のない部屋を1部屋作っておくとよい（家族の集合する部屋）

（2）東日本大震災から学んだこと

東日本大震災は、災害対策を決して怠っていたわけではないが、これまでの取り組みが無効と感じてしまう程の規模だった。いつどこで起こるか分からない自然災害を予測することは難しい。従って、自然災害と共生していくことが、被害を最小限にする手立てとなる。自分の居住する地域で起こった土砂崩れや河川の氾濫、水害、地震についての情報は、必ず把握していただきたい。

また各地域で、災害時に当面の避難生活を行なう避難所として、指定避難所が設定されている（仙台市は逃げおくれた人へ高速道路も避難所となった）。指定避難所となっている学校の近隣に居住されている方々については、平常時の防災訓練等で学校との連携を密にして頂きたい。そうすることで災害時にも連携がスムーズに行える。避難する際に必要なものとして、携帯ラジオ、懐中電灯、薬この3つを所持されると良い。

（3）自主防災組織の役割・まとめ

公助が機能するまでの72時間、自助と共助で乗り切る必要がある。3日間は役所の援助に頼らずにしのげるよう、必要な備蓄や準備に取り組んでいただき、まずは自分の命を、そして家族の命を優先に考え、行動していただきたい。

身につけた知識・経験の全ては決して裏切らず、役に立ってくれるものである。防災訓練、避難訓練等、役に立たないと思わずにいざという時に必ず役に立つと考えて参加してほしい。避けられない災害と共生することを意識して、備えは怠らずに生活して頂きたいと思う。



開催地より

豊富な知識を活用した有意義な講演であった。今後も女性目線の防災対策やペット同行避難など、幅広い視点から防災行政を推進する必要性を感じた。